

ベルガモットミントエキスの DKK1 促進作用について発表
日本薬学会 第 143 年会にて発表

株式会社ナガセビューティケア(本社 東京都中央区、代表取締役社長 三原康弘)は、ベルガモットミントエキスとその成分に DKK1 促進作用を確認しました。この研究成果を、日本薬学会第 143 年会(北海道大学 2023 年 3 月 27 日)において発表しました。

発表タイトル
DKK1 促進作用を指標とした植物エキスの探索

【研究背景】

Wnt シグナルは細胞の増殖や分化、発生等において重要な役割を担うシグナル伝達経路であり、皮膚における皮膚色の制御にも影響を及ぼすと考えられています。こうした Wnt シグナルの阻害因子として知られる Dickkopf1(DKK1)は、色素細胞の増殖やメラニン産生を抑制すること、並びに表皮角化細胞のメラニン取込を阻害することが知られており、DKK1 を調節することにより色素形成を制御することができると考えられています。本研究では、DKK1 を促進する植物エキスを見出すことを目的とし、植物エキスの探索を行いました。

【学会発表内容】

13 種類の植物エキスをヒト皮膚繊維芽細胞(NHDF)に添加し、24 時間後の細胞における DKK1 遺伝子の発現量を評価しました。その結果、ベルガモットミントエキスに最も高い DKK1 促進作用が確認されました(図 1)。

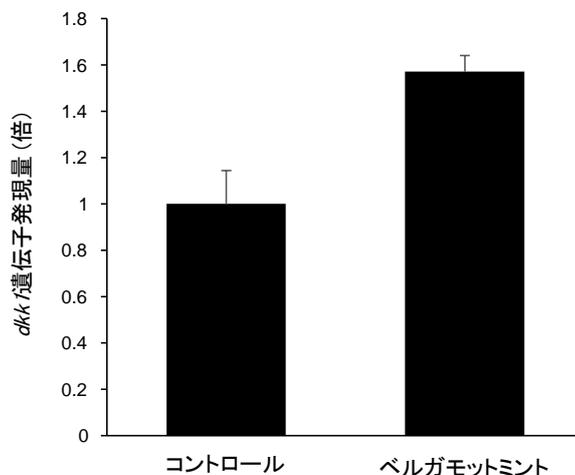


図1 ベルガモットミントエキスの DKK1 促進作用

続いて、DKK1 促進効果を示す成分の探索を行いました。DKK1 促進作用を指標に成分探索を行ったところ、salvigenin(サルビゲニン)が同定されました。サルビゲニンの DKK1 遺伝子発現量への影響を評価したところ、濃度依存的な DKK1 促進作用が確認されました(図 2)。

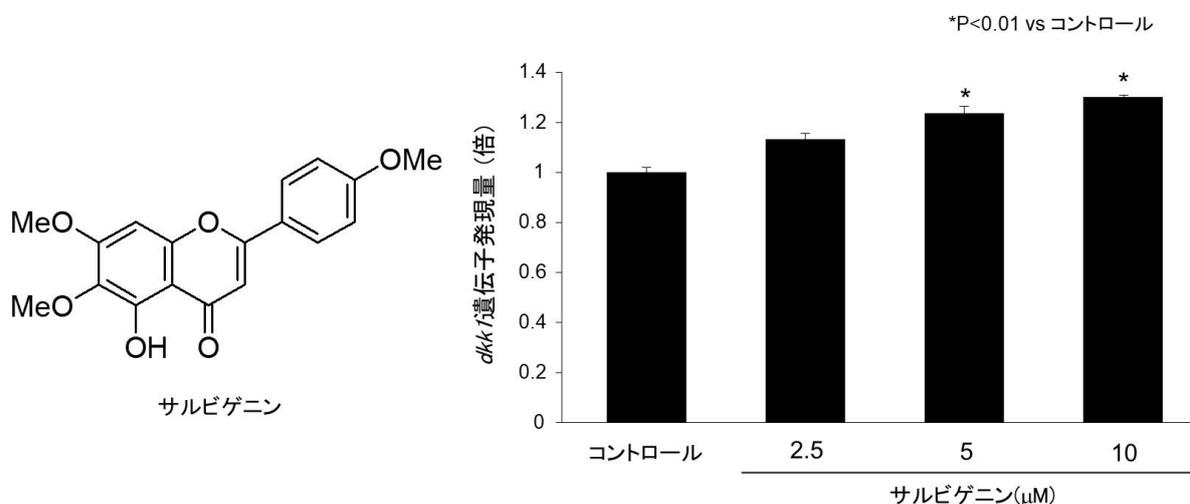


図 2 サルビゲニンの DKK1 促進作用

【まとめ】

13 種類の植物エキスの中から、DKK1 促進効果の高い植物エキスとして、ベルガモットミントエキスを見出しました。成分探索の結果、サルビゲニンに濃度依存的な DKK1 促進作用が確認されました。サルビゲニンは、ベルガモットミントエキスの DKK1 促進作用に働きかける 1 つの成分であると考えられます。

<報道関係からのお問い合わせ先>

お問い合わせにつきましては、pr@nagase.co.jp まで
メールにてご連絡をいただきますよう、お願い申し上げます。

株式会社ナガセビューティケア 広報担当 及川・中澤

HP アドレス <https://nbc.jp>